

ことば科グループ研究会

グループ員：小木曾 笑子 (池尻小学校)
佐古 賢一 (伊丹小学校)
天河 真弓 (摂陽小学校)

担当指導主事：増田 朋之

キーワード：ことば科 ことばの力 授業改善 対話的な学習

1 研究テーマ

「ことば科のカリキュラム・マネジメント」

2 研究内容

(1) ことば科カリキュラムの見直し

ことば科は、子どもたちのことばへの関心を高め、子どもたちのことばの力を伸ばす土壌をしつかりと耕すことを目的として、平成18年4月にスタートした伊丹市独自の教科である。当時の専任講師を中心にそのカリキュラムが作成された。国語科から5時間、総合的な学習の時間から30時間をことば科の授業を実施することで、週1時間の授業時数を確保している。

伊丹市立小学校の国語科では、平成28年度版の教科書から光村図書を採択している。しかし、ことば科のカリキュラムでは、これまで使用していた教育出版の教科書の教材が取り上げられており、見直しが必須となった。そこで、ことば科の果たす役割に着目して、各学年の教材の見直しを行い、国語科をはじめ他教科と融合し、生きてはたらくことばの力を高める新しい「ことば科」の授業づくりに取り組むこととした。

① ことば科カリキュラムの課題

現在各校で使用していることば科のカリキュラムを比較し討議した結果、以下のような課題があげられた。

- ・「俳句」に関する単元が35時間中10時間以上ある。
- ・百人一首の単元が各学年ともに4時間以上ある。
- ・国語科教科書の改訂に伴い、指導に時期がズレている教材が見られる。

② カリキュラム案の作成

以下の点に留意して、3～6年生のカリキュラムの見直しを行った。

- ・学年の教科書教材との一致（学年、時期）
- ・配当時間の適正化

(2) 提案授業

第4学年の国語科「聞き取りメモの工夫」の導入として、ことば科の「秋祭りに行こう」を取り上げ提案授業を行った。メモを取りながら聞くことの必要性や工夫してメモをとることへの意識付けの授業提案であり、国語科の単元への興味付けを果たした教材となった。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① カリキュラムの見直しを行うことで、国語科の教科書との融合を図ることができた。
- ② カリキュラムを見直すことで、4年間の学習を系統的に見ることができた。

(2) 課題

- ① 単位時間の授業案を見直し、ことばの力が育つ学習へ授業改善を行う。
- ② 新学習指導要領を見据えた、評価文例を作成する。